

# 静岡市版パークレット『Honeycomb Square (ハニカムスクエア)』の取組みについて

亀谷 浩司<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 静岡市建設局道路部道路計画課 企画係主査 (〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号)

2020年3月末をもって廃止された路上パーキングの空間を歩行者のためのパークレットとし、その有効性を検証する社会実験の取組みについて、事例を交えながらご紹介します。

キーワード パークレット、社会実験、ハニカムスクエア、歩行者利便増進道路 (ほこみち)

## 1. パークレットを設置したきっかけ

2020年3月末、静岡市内中心部にあった路上パーキングがすべて廃止されました(写真1)。この路上パーキングは静岡県警が設置したのですが、2009年に実施された静岡県の事業仕分けにおいて、稼働率の低下から段階的に削減することとなり、今回、静岡市においても廃止に至っています。

この廃止によって生まれた空間は、これまでも駐車スペースであり、車が停まっていた際には、その脇の残された幅員で問題なく車両が通行していました。そこで、本市が目指す「歩いて楽しい街」に向けた取組みとして、この廃止で生まれた空間に歩行者が滞留できるパークレットを設置し、まちの賑わいづくりに貢献できないかを検証する社会実験を実施することとしました。

折しも、昨年3月は新型コロナウイルス感染第1波で屋内空間での密集がはばかられる中、パークレットは三密を回避できるオープンスペースとなることから、アフターコロナを見据え、スピード感を持って推し進めることとなりました。



(写真1) 路上パーキング利用状況

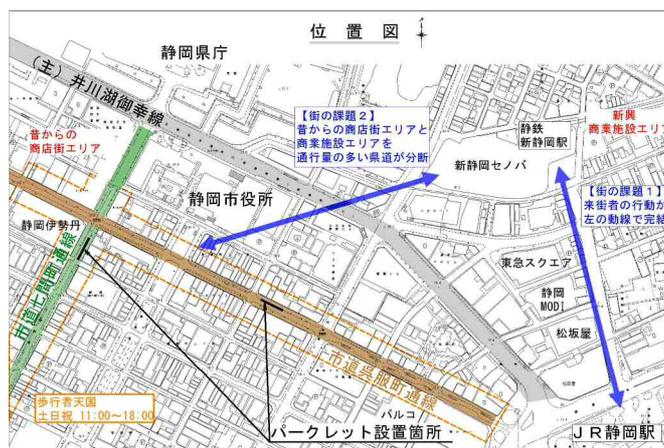
## 2. 静岡市版パークレット”ハニカムスクエア”誕生

### (1) 社会実験での取り組み

今回の社会実験では、賑わいづくりへの効果検証やア

ンケート調査を実施することによるパークレットそのものの有効性の検証を行うこととしました。

パークレットは、JR 静岡駅と中心市街地を結ぶ、市内でも人の往来の多い市道呉服町通線、市道七間町通線に1箇所ずつ設置しました。これら市道は、土日祝日の11時から18時は歩行者天国となる昔からの商店街エリアです(図1)。



(図1) パークレット位置図と街の課題

社会実験は上半期のスタートを目指し、季節の変化に応じた利用状況の確認を考慮し、一定期間の設置が必要であることから2021年3末日までとしました。

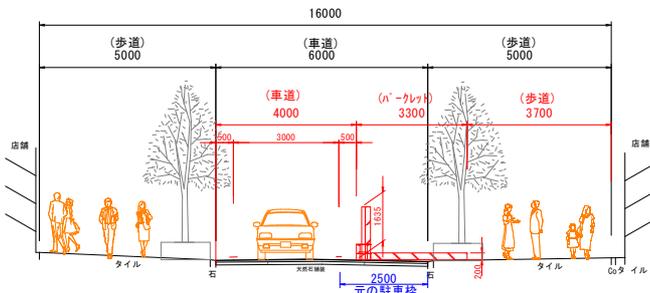
パークレットの材料は、地産地消とすることで市の経済循環に寄与すること、製作の速さ、加工の自由度が高いこと、社会実験としてコストを抑える必要があることから、静岡市産木材(通称:オクシズ材)を使用しました。また、パークレットの外周部には、プレキャストコンクリート製の置きガードレール基礎を設置し、利用者の安全確保しました。

### (2) 所轄警察署との協議

所轄警察署とは、路上パーキングとして利用実態のあった箇所に設置するため、歩行者や自転車、自動車の交通の安全が担保できていることを整理し、協議を行いました。警察からは、パークレット上の物は全て固定する

こと、パークレットから人が飛び出せない、出さない構造とすること等の条件が付されましたが、先行不透明感のあるコロナ禍におけるパークレットを活用した地元経済対策という企画の趣旨についてご理解いただき、スムーズに協議が進みました（図2）。

標準横断面図  
市道呉服町通線



(図2) パークレット標準横断面図 (呉服町通線)

### (3) 地元商店街との協議

呉服町通線、七間町通線沿線の2つの商店街に対してパークレットの企画を提案したところ、快く賛同いただき、一緒に取り組むことになりました。両商店街とも、自分たちの道路空間に愛着と誇りを持っており、パークレットのデザインについて、以下の2点に配慮することとしました。

- ① 地元商店街が作り上げた街の景観に調和した空間とすること (写真2)
- ② 特定の集団が長居するのではなく、幅広い世代が利用できる、居心地の良い空間とすること



(写真2) 市道呉服町通線 2018年静岡まちかどコレクション大賞受賞

### (4) 官民連携のハニカムスクエア誕生へ

デザインの感覚は、十人十色の面もあるため、商店街の方々や市職員だけで形づくりに限界を感じました。そこで、デザインは市内でリノベーション街づくりを手がける(株)CSA不動産に協力をお願いすることとしました。また、パークレットの製作・設置はオクシズ材の扱いに精通している静岡木材業協同組合を選定することとしました。

プロジェクトに(株)CSA不動産と静岡木材業協同組合が加わり、商店街含め、官民が連携したチームとして一体感が増し、さらにイメージが具体的になるにつれ、完成への期待も徐々に高まりました。

パークレットは長さ約21m × 幅約3m (市道への張り出

し2m、歩道側1.3m) のゆとりのある空間としました。椅子やテーブルを並べるのではなく、また座り方や集い方を押しつけない、通常のベンチと違い自由な方向を向いて座ることができる空間を意識し、正六角形と四角形のユニットを組み合わせるデザインとしました。

こうして思いが詰まったデザインに対し、市民の皆さまから愛着を持ってもらおうと、このパークレットを「ハニカムスクエア」(通称:ハニスク)と命名しました。正六角形のハチの巣構造より「ハニカム」と四角形を表す「スクエア (=広場)」を掛け合わせたネーミングです(図3)。

ハニカムスクエア デザインコンセプト



ハチの巣構造に由来する  
正六角形 = ハニカム



正六角形を構成する  
四角形 = スクエア  
(広場)

正六角形と四角形のユニットで構成される新しい空間  
= ハニカムスクエア

座り方、集い方を押しつけない自由な使い方ができる空間を  
コンセプトにデザイン。

(図3) ハニカムスクエア デザインコンセプト

ハニカムスクエアは2020年9月25日、多くの方からのご支援をいただき、無事オープンを迎えました。この取り組みについては、コロナ禍における道路空間の新しい使い方として、各報道機関に多数取り上げていただきました(写真3)。



(写真3) ハニカムスクエア七間町

## 3. 社会実験の評価

### (1) 賑わい作りへの効果検証結果

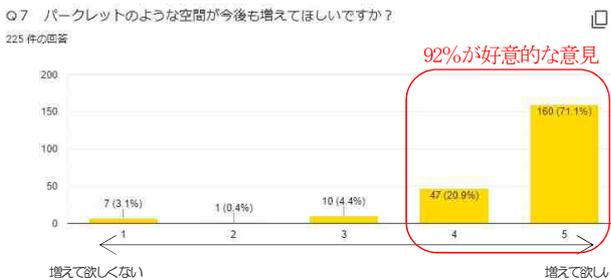
定点カメラを設置し利用状況を調査したところ、ハニカムスクエアは、待ち合わせや読書、愛犬を連れて散歩中に休憩される方、パソコンを開いてレポートを作成する学生、子供と一緒に弁当を食べるお母さん、打ち合わせをするサラリーマンなど、様々な形で利用されており、2020年11月に行った調査では、12時間の延べ利用人数が266人、同時滞在人数17人と大変多くの方にご利用頂いていることが確認されました。来街者の「行動の多様性」や「滞在」という面で、街の賑わい作りにも一定の効果があることが確認されました。

## (2) アンケート調査結果

ハニカムスクエア利用者からのご意見を聴く手段の一つとして、アンケートサイトのQRコードを現地に貼り付ける方法を採用しています。この方法のメリットは、回答者が自らがQRコードを読み込みアクセスするため、アンケート用紙の配布や回収等の人件費が一切かからないこと、またアンケートの回答は自動で集計され、途中経過を即座に確認できることが挙げられます。しかし裏を返すと、回答者自らがアクセスして回答しなければならないため、いかに興味を持ってもらうかが課題となります。アンケートへの回答数はそれほど期待できないと考えていましたが、我々の予想に反し、2021年5月末現在で220件余りの回答があり、好意的な意見が多く、利用者の満足度が非常に高いことが確認されました(図6)。また、皆さんが自らQRを読み込み、自分の声を直接届けたいという行動を起こして下さったことに感銘を受けました。



(図5) アンケート回答サイトQR



(図6) アンケート回答の一例

その他、自由意見として、「既存のベンチと違い、ハニカムスクエアはいろいろな向きで座ることができるので居心地が良い」という意見や、「街で過ごす日常に特別感を感じる」といったデザインに込めた想いが利用者にはしっかりと届いていることも確認できました。

なお、交通事業者に対するヒアリングにおいては、路上駐車場だった時に比べて通りの見通しが良くなったことから、安全性が高まった、との意見もいただきました。詳細は(図7)からご確認くださいませ。



(図7) アンケート結果サイトQR

## (3) SNSによる拡散効果

ハニカムスクエアの情報は、利用者や周辺店舗の方々からSNSを活用し多数拡散されています。「#ハニカムスクエア」「#ハニカムスク」を検索いただくと、利用状況や広告媒体としての価値を確認することができます(図8)。ここで、Instagramを一例に紹介しますと、オープンから1カ月で30名近い方がハニカムスクエアをタグ付け投稿し、これにより約2万2千人のフォロワー



(図8) Instagramの一例

に対しハニカムスクエアの情報が届けられました。ツイッターやフェイスブックでも同様の投稿が確認され、一般の方々からの投稿がハニカムスクエアの広報活動の大きな力となっています。

## (4) パークレットの新たな活用方法について

静岡市が全国的な花の産地であることのPR活動と、コロナ禍での花の出荷減少に苦しむ事業者支援を目的とし、ハニカムスクエアで花の販売を行いました。オクシズ材と花や緑がマッチし、街の一角に西洋のような雰囲気生まれ、たくさんの方にご好評いただきました。販売も盛況に終わったことから、パークレットは休憩施設だけでなく、物販に活用することが有効な空間であることが確認されました(写真4)。



(写真4) ハニカムスクエアでの花の販売

## 4. 継続した設置について

社会実験は2021年3月末までとしておりましたが、継続した設置を望む声が多く寄せられており、またコロナ禍において屋外空間の必要性は高いことから、現在も継続して設置をしています。

## 5. 考察

### (1) デザインがもたらす力

ハニカムスクエアのデザインは、我々市職員だけでは生み出すことができない、官民連携の賜物です。街の中にハニカムスクエアという親しみやすい空間を作り出したことにより、多くの市民がそこで思い思いの時間を過ごし、やがて居心地の良さへと繋がり、歩いて楽しい街へと発展するのではないかと思います。ハニカムスクエアは商店街の方々が日々清掃を行い、今日もたくさんの方にご利用頂いております。静岡市が目指すウォークアブルシティの実現に向け、道路空間の使い方に対する市民意識を変えるきっかけになったと考えています。

### (2) ほこみちの指定へ向けて

ハニカムスクエアを設置した呉服町通線・七間町通線は、道路整備から30年余りが経過し、舗装面やストリートファニチャーの老朽化が散見されます。当時は、県外からも視察が来るほどの賑わいをみせていた商店街も、徐々に空き店舗が目立ち始めています。今回の社会実験を契機に、ほこみちの活用も視野に入れながら、街の賑わいづくりに貢献する道路空間の在り方を議論する良い機会を提供できたと考えています。